

平成 22 年度 第 1 回山形県教育懇話会（平成 22 年 6 月 2 日開催）

委員 発 言 要 旨

◇第 5 次山形県教育振興計画の見直しについて◇

【柴田委員】

- 国際化する社会の中で、子どもたちがどのように生きていくのかという視点、
どういう人材がこれから必要なのかという視点が必要だ。
- これまでは、子どもを大事に育てすぎていたのではないか。小・中・高と問題を
起こさないと、社会に出してやれば何とかできるのではないかという意識でいた
ため、ひ弱な子どもたちを育ててきたのではないか。その結果、会社に入っても
すぐに辞めたりするなど、社会の中で耐えていけない人間が増えてきている。こ
れからは、「人間の優しさ」と同時に「生きぬく強さ」が必要である。
- 国際化が進展する中、世界で生きていくたくましさ、強さが大切。社会に出れ
ば、新入社員として中国やインド等の人たちと一緒に研修を受けることになる。
- 国際的な学力基準に則った学力を身につけることが重要である。
- 「強さ」「自立」「世界で生きる」というキーワードを入れてほしい。
- 農業高校、工業高校、水産高校等の実業高校は下手に統合しないでほしい。中
国語、英語をしっかりと学ばせることが必要。

【山口委員】

- 人口減少、高齢化が進行する中、今いる人材を掘り起こして、どのように活か
していくかということが大切であり、それが地域の魅力にもつながっていく。
- 教育についても、子どもたち一人一人の良さを引き出し、個性を伸ばし、掘り
起こしていくことが大切。そのためには、学校の独自性、自主性を活かし、個性
を伸ばす教育の展開が必要である。
- 5 教振の取組みを県民の方々に、広く伝えていくということも、これからの重
要な視点ではないか。

【後藤委員】

- 校長として、5 教振の理念を学校の教育課程の中心に位置づけ、それが実際に
根付くまで 3 年かかった。浸透するには時間がかかるものである。
- 5 教振の柱である「いのちの教育」の理念は、教育の「不易」の部分にあたる
ものであり、変えてほしくはない。
- 「いのちの教育」を実践する上で大切なことは、一日一日の生活の積み重ねで
ある。「早寝・早起き・朝ごはん」など、当たり前のことを、強調しなければなら
ない現実がある。大人が、そのようなことに重きを置いていない嫌いもあり、子

どもとの接し方に自信が持てない姿もある。

- 5教振では、高校までを対象にしているが、大人も含めて、もっと先を見据えていく必要があるのではないか。
- 今まで様々言われてきた世界の常識というものが、本当に正しい方向を向いているのかどうか。当たり前だと思っている常識を疑ってみる必要はないか。

【五十嵐委員】

- フィンランドの教育の特徴は、少人数による学級、読書を大切にした教育、課題解決型の学習などであり、子どもたちは意欲的に学習している。これは、図書館活用教育を推進する朝暘第一小学校の教育と似ていると感じている。子どもたちに読書の力をつけさせた結果、学力面で成果がみられ、算数の学力も上がった。
- PISA調査では、日本の子どもたちは、外国の子どもたちと比べて読書の時間が短く、読書活動を一層推進したい。
- 図書館を活用した学習、学び方を学ぶ教育を推進し、子どもたちが主体的に学ぶことにより、生き抜く力、生きていくための基礎となる力をつけていく必要がある。

【無着委員】

- 県PTA連合会では、昨年度、学校と家庭、子どもと親のコミュニケーションについてのアンケート調査を実施した。課題としては、家族との「やすらぎ」や「ふれあい」を重視した家庭教育の重要性、視点が挙げられており、今後、親と子どもの読書運動を展開していく予定である。
- 今年度のPTA研修大会で、母親委員会では「かかわるよろこび、つながるこころ」というテーマで分科会を開催し、心の通い合うコミュニケーション、食を通した家族のかかわりについて研修する。
- 特別支援教育については、専門性の高い教員の確保や環境整備はもちろん大切であるが、学校全体として子どもたちに対する共通理解を図り、教育が進められるよう期待したい。

【内ヶ崎委員】

- 5教振を読んできたが、よくできているし、特に「奈々子に」の詩などは大変良いと思った。
- 今の若者は、悩みを抱えるのが下手くそだと感じている。悩みを抱え、苦しむこともせず、キレたり、非行に走ったり、一方では「ひきこもり」や「ニート」など、両極端である。普通にはなれずに、「ギャル」か「オタク」でないと生き残れない。
- 「自分はこれでいいんだ」という、健全な「自己愛」が弱ってきているのではないか。
- 赤ちゃんの頃は、全てが受け入れられ肯定されるが、成長するにつれ思うようにならないことが増えていく。そのような中で、子育てにおいては、そのままほめら

れ肯定され続けるか、逆に虐待のように否定され続けるかというような状況がみられる。

- 打たれ強さを伴った健全な「自己愛」を育てていくためには、大人が変わらなければならない。

【大場委員】

- 「いのち」「まなび」「かかわり」のテーマで進めてきた5教振の施策の成果が見えてきているのではないか。これを、さらに良くしていくことが大切だ。
- 少人数指導、特別支援教育によって明らかになったのは、「教師の力」の大切さである。教師自身をもっとコミュニケーション力をつけないと、子どもにコミュニケーションを求めても埒があかない。子どもと一緒にいることが楽しい、子どもと共に将来を考えるのが楽しいと思えるような、人間としての資質が必要である。
- 教師としての資質を高めるための研修、大学での公開講座等などの研修を大切にしていきたい。
- 本を読む文化を創っていく必要がある。教師は子どもたちが本を読む大きなきっかけになる。読書の楽しさを指導できる教師の研修も必要。
- 学校図書館の整備を推進したい。そのための財政支援も必要である。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」など、私たちが育ってきた時代の当たり前のことが、現在の家庭では当たり前でなくなっており、家庭教育の充実を盛り込んでいく必要があるのではないか。

【鎌田委員】

- 子どもたちの運動や学力の根底となる最も大事なものは、家庭の中にあると言っている。
- 子どもたちが外で歓声を上げて遊ぶ姿が見られなくなっている。学校でも、危険なので、鉄棒・ブランコを取り外したなどということを知ることがある。危なくない使い方の指導が必要なのではないか。
- 「いたわり」「優しさ」「たくましく生きる」「自信を持って生きる強い心」を育てたりすることは運動やスポーツに期待される重要な部分である。
- 幼児期から大いに自然の中で活動するよう、推進していく必要がある。親子で体を動かす機会が減少してきている。
- 総合型スポーツクラブは、運動のプログラムが中心であるが、文化的な面や芸術的な面など、様々な分野において、幼児から高齢者までを対象とした取組みを展開している。
- 体育の授業や放課後子ども教室の活動など様々な場面で、総合型スポーツクラブを活用していただきたい。
- 運動では幼児から一貫した指導が大切である。運動が不得手な子どもに運動の楽しさを教えていくことも必要である。

【角屋委員】

- 博物館の仕事や短大の非常勤講師等がかかわった若者の中に、やけに自信をもっている人がおり、不思議に思っていた。自己分析できない、客観的に自分を見つめられない若者が多いのは、幼い頃から、ほめられ続け、その狭い世界で生活してきたからではないかと感じている。広い視野を持つことが大切であり、その点では、読書やスポーツは大きな力になると思う。
- 山形県内にはきわめて貴重な、魅力的な文化財がある。しかし、その文化財の感動を伝えられる人が少なくなっている。
- 昔は、あの地域のことは、あの人に聞けばわかるという有識者がいたが、今、そのような人材がいなくなっている。教師が忙しいということもあるのかもしれない。
- 全国でも公立の博物館が閉館になっているという厳しい状況の中、地域を知り、地域に誇りをもてるような教育を、どのような形で学校へ提供できるかを考えている。

【池田委員】

- 「いのちの教育」は、4教振の「感性教育」を基盤にして引き継いだものであり、連続性のある、教育の「不易」の部分として貫いていくものである。
- 「感性」とは何か、一つではない。一人一人の捉え方が違っていてもいいと思う。「いのちの教育」もひとつではない。
- それぞれの家庭の価値観の中で、子どもたちは育っていく。大切なのは、他との違いについて自分なりの意見を持ち、ぶつかり合い、そして新たな価値観に気づき、成長していくことである。
- このような、教育についての本質的なことを大人がしっかり押さえないといけな
- 「まなび」「かかわり」「元気」についても、人間関係が厳しい所で育ってきた子どもは強い。都道府県の違いによっても様々な捉え方、価値観がある。このようなことを踏まえ、5教振をみると自ずと見直す観点が見えてくるのではないかと思う。

【山川座長】

- 教育で一番大事なことは、「継承」と「発展」ではないか。
- 教育改革が進む中で、一旦立ち止まって検証することも大切なのではないか。当初の目的は何だったのか。改革そのものが目的となっていないかなどを点検し、複数の目で見えていくことが大切であり、一極集中的な見方というのは危ない。
- 「感性教育」から「いのちの教育」への継承をうれしく思っていた。
- 「いのちの教育」の指針を読んできたが、ここまで深めて書かれているものはそうそうないと思う。これは、非常に深い内容なので、学校で実践をしていくには5年くらいでは、まだ十分ではないと思う。